

① (②との選択問題) リスニング

かなりまとまった分量の英文を聴き、解答する問題である。前回の講評でも述べたが、メモを取る場合、語句を書こうとするのではなく、数字、記号、人名の頭文字などを簡単にメモすることにとどめるとよい。話の流れ、全容を捉える気持ちで聴くが、短期記憶を動員することになる。これも回数を重ねるうちに慣れてくるので、コツコツがんばろう。昨年および今年使用している「CORE READING」の音声をQRコードで読み取り、聴き続けるのもよい訓練になる。これはまとまった分量のリスニングの訓練になるだけでなく「英文を、聴く速度で読める」ことにつながっていく。さらに語彙を、文脈の中で、音声とともに覚えることにもなる。他の教材でもいいが、一度読んだものを、音声で聴き続けると、総合的に早く力を上げることができる。

② (①との選択問題) ③ 解説を読んで、粘り強く学習しよう。解説を読んでもわからなければ、質問に来てください。大切なのは、あいまいなまま終わらせないこと。深く納得するまで考える、それ抜きで次々と新たな問題をやっても積みあがらない。時間がかかっても、ひとつひとつわからないところを追求しよう。

④ この英文を読んで、「単語もわからないし、構文もわからない、だから無理」とあきらめるのではなく、わかるまで読み込んでください。以下に解説ではわかりにくい部分を取り上げます。

“Suddenly the gliders have (6 competition) from something that **was** going for the exact same resources **they** were **but was** better at getting around,” Dececchi says.

going for が省略

突然、その滑空する恐竜たちは、彼らが追い求めている (going for) のと全く同じ資源 (食糧) を求めている、だが彼らよりずっと飛び回るのがうまい何か (something = 同時期に登場した他の翼竜や鳥類) と競合することになる。

⑤ ④と同じく粘り強く読もう。他も含めてさすがに良問である。(誰やねん)

問1 (1) portmanteau の例を4つの選択肢から選ぶ問題だが、文中の、“Typoglycemia” が、“typographical” と “hypoglycemia” とが合体したことばであることに、じっと眺めると気づく。したがって解答は、(エ) brunch (breakfast + lunch) となる。

6 B 和文英訳

田舎にいた頃は気楽に暮らしていた。(1) 学生だった私は、苦勞するというのがどのようなことなのかを知らなかった。初めてそれを知ったのは都会で働き始めたときである。職場の人間関係に気を使い、締め切り仕事に追われてホッとする暇もなくなったのだ。(2) しかし今では、そのおかげで、どんな逆境に遭っても、それを乗り越えられるという自信ができたように思うのだ。

「下線部を英訳せよ」なのだが、いきなり下線部だけを見て、英語にしようとするのはダメである。ことばというのは常に文脈の中での、本当の意味があるからで、一部だけ切り取って、伝えようとする、誤解や物議を醸し出す、ということ私たちは世の報道や SNS で体験している。

この問題で(1)の「苦勞する」(have difficulties / have a hard time)の表現がずっと出てきたらいいが、出てこない場合も、その後ろに続く下線のない部分を読んで、どう表現するかを考えることが重要である。「仕事」や「実社会」での「苦勞」を学生時代は知らなかった、ということだから、

模範解答：When I was a student, I didn't know what it was like to experience difficulties. の他に、I didn't know what it was like to live in the real world. [to work in society] などが可能である。ところで、「～するというのはどういうことか?」 What is it like to ~? は鉄板表現なので、ぜひ活用したい。もちろん、前に I don't know などが付けば、I don't know what it is like to ~. と語順が変わる。(2)については、「逆境」→「困難」とやさしい言葉に置き換え、「どんな～でも」の表現 Whatever ~ を思い出せばなんとかなる。自信 (名詞 confidence) を形容詞形 confident を使って、Thanks to this experience, now I feel confident that I can overcome ---. とするのも可。

6 自由英作文：自分の考えなどを述べる、などの問題では、簡潔、明確さが肝心である。どの英作文でも当然、日本語のまま直訳は不可だが、自分勝手に独創性を発揮するのはいけない。模範となる表現を覚えることが、自然な英語を書けるようになる早道である。意外な勉強法として、リスニング教材や共通テスト問題などの、自分の意見を述べている英文や何かを説明している英文を、聴く・読む、などして馴染んでおくことである。要するに英文を「聴く、読む」ときに「情報さえ得られれば終わり」とするのではなく、自分が表現する立場で、こう「言う」のか、こう「書く」のか、という意識で、文法も抑えつつ自分に取り込んでいくことが、早く確実に力をつける方法である。